

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー



南アフリカ



インドネシア



インド

市場概要・見通し（カナダ、ブラジル、メキシコ）

| 国（地域） | 格付 （※1） | 債券（※2） | 為替（対円） | 経済成長率 | 政策金利 | 先週の動向 | 今週の見通し |
|--|------------|--|---|--|---|---|--|
| | | 12/6 （11/29との比較） | 12/6 （11/29との比較） | 前年比 （※3） | 先週末 | | |
| | | 今後の見通し （※4） | 今後の見通し （※5） | 景気の方向性 （※6） | 方向性 （※7） | | |
| カナダ  | AAA | 1.58% （+0.12） | 81.91円 （▲0.64%） | +1.7% 2019年3Q | 1.75% | 発表された国際商品貿易が市場予想を上回った一方、雇用統計では雇用者数が大幅減となるなど市場予想を下回る内容。中銀が市場予想通り政策金利を据え置く中、国債利回りは上昇。カナダドルは対円で下落。 | 住宅着工件数や景況感指数などが発表予定。前週の雇用統計を受け、12日に予定されている講演でのポロズ中銀総裁の発言内容に注目が集まる中、債券・為替市場はともに現在の水準を是と見て一進一退の展開が続くと予想。 |
| | Aaa |  金利横ばい |  金利横ばい |  景気安定 |  据え置き局面 | | |
| ブラジル  | BB- | 5.70% （▲0.14） | 26.22円 （+1.46%） | +1.2% 2019年3Q | 5.00% | 発表されたGDP（国内総生産）が市場予想を上回った一方、鉱工業生産が市場予想を下回る内容。GDP拡大の主因となった個人消費改善が金融緩和効果によるものとの評価もある中、リアルは対円で上昇。国債利回りは低下。 | 小売売上高などが発表予定。金融政策決定会合が予定されており、市場は0.50%の利下げを予想。債券・為替市場ともに、15日に追加関税発動を控える米中の関税交渉の結果に大きく影響を受ける展開を予想。 |
| | Ba2 |  金利横ばい |  金利横ばい |  景気安定 |  利下げ局面 | | |
| メキシコ  | A- | 6.90% （▲0.08） | 5.63円 （+0.32%） | -0.3% 2019年3Q | 7.50% | 発表された消費者信頼感が前月比で改善した一方、製造業PMI（購買担当者景気指数）が前月比で悪化。USMCA（米国・メキシコ・カナダ協定）交渉がやや難航する中、メキシコペソは対円で上昇。国債利回りは低下。 | CPI（消費者物価指数）や鉱工業生産などが発表予定。USMCAについては、年内に妥結する可能性は残されており、為替市場については一進一退、金利水準については低下基調を予想。 |
| | A3 |  金利低下 |  金利横ばい |  景気安定 |  利下げ局面 | | |

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

| 国（地域） | 格付 （※1） | 債券（※2） | 為替（対円） | 経済成長率 | 政策金利 | 先週の動向 | 今週の見通し |
|---|------------|--|---|---|---|--|---|
| | | 12/6 （11/29との比較） 今後の見通し （※4） | 12/6 （11/29との比較） 今後の見通し （※5） | 前年比 （※3） 景気の方向性 （※6） | 先週末 方向性 （※7） | | |
| オーストラリア  | AAA | 1.13% （+0.09） | 74.27円 （+0.31%） | +1.7% 2018年4Q | 0.75% | 発表されたGDPは概ね市場予想通りとなったものの、貿易収支と小売売上高が市場予想を下回る結果。声明文はハト派的ながら中銀が市場予想通り政策金利を据え置いたこともあり、国債利回りは上昇。豪ドルは対円で上昇。 | 企業景況感や企業信頼感、消費者信頼感指数などが発表予定。経済指標の弱さなどから年明け以降の追加利下げの可能性が高まったとの見方が高まる中、金利水準については低下基調をたどる展開を予想。 |
| | Aaa |  金利横ばい |  |  景気安定 |  利下げ局面 | | |
| ニュージーランド  | AA+ | 1.49% （+0.20） | 71.29円 （+1.39%） | +2.1% 2018年4Q | 1.00% | 発表された交易条件指数は市場予想を上回る内容。中銀が国内銀行に対し必要な自己資本比率を上げたものの、経過措置長期化で銀行貸し出し緩和期待が高まる中、国債利回りは上昇。ニュージーランドドルは対円で上昇。 | 製造業PMIなどが発表予定。国内の経済指標の内容に加え、15日に追加関税発動を控える米中の関税交渉の結果から目が離せない中、債券・為替市場はともに現状水準での一進一退の展開が続くと予想。 |
| | Aaa |  金利横ばい |  |  景気安定 |  利下げ局面 | | |
| ノルウェー  | AAA | 1.47% （+0.06） | 11.90円 （+0.16%） | +1.3% 2019年3Q | 1.50% | 発表された経常収支が前四半期比で減少した一方、鉱工業生産は前年比での落ち込みを縮小する内容。原油価格が上昇したこともあり、ノルウェークローネは対円で上昇。国債利回りは上昇。 | GDPやCPIなどが発表予定。FOMC（米連邦公開市場委員会）を控え、海外の金利動向や米中通商協議などから目が離せない環境下、債券・為替市場はともに一進一退の展開が続くと予想。 |
| | Aaa |  金利横ばい |  |  景気拡大 |  据え置き局面 | | |

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

| 国（地域） | 格付 （※1） | 債券（※2） | 為替（対円） | 経済成長率 | 政策金利 | 先週の動向 | 今週の見通し |
|---|------------|--|---|---|--|--|---|
| | | 12/6 （11/29との比較） | 12/6 （11/29との比較） | 前年比 （※3） | 先週末 | | |
| | | 今後の見通し （※4） | 今後の見通し （※5） | 景気の方向性 （※6） | 方向性 （※7） | | |
| 南アフリカ  | BB+ | 7.35% （▲0.11） | 7.42円 （▲0.59%） | +0.1% 2018年2Q | 6.50% | 発表されたGDPと経常収支が市場予想を下回ったほか、電力消費が前年を下回る結果。景気減速が財政悪化に波及する可能性があり、国債格下げへの懸念が再燃する中、ランドは対円で下落。国債利回りは低下。 | CPIや小売売上高などが発表予定。国債格下げリスクが高まり、経済指標や経済実態から目が離せない中、ランドについては下落基調が続く展開を予想。金利については値動きの激しくなる可能性を想定。 |
| | Baa3 |  金利横ばい |  |  景気停滞 |  利下げ局面 | | |
| インドネシア  | BBB- | 6.51% （+0.02） | 0.77円 （▲0.26%） | +5.0% 2018年4Q | 5.00% | 発表された製造業PMIは前月比で改善した一方、CPIは市場予想を僅かに下回る内容。米下院でのウイグル人権法案可決などによる米中貿易交渉の長期化懸念もあり、インドネシアルピアは対円で下落。国債利回りは小幅上昇。 | 特に注目すべき経済指標の発表は無し。引き続き、国内では政治・経済両面で特段の好材料が見当たらず、米中通商協議を巡る動きを見極める状況下、金利水準は低下基調が続くと予想。 |
| | Baa2 |  金利横ばい |  |  景気安定 |  利下げ局面 | | |
| インド  | BBB- | 6.45% （+0.26） | 1.52円 （▲0.35%） | +4.5% 2019年3Q | 5.15% | 発表された製造業PMIは前月を上回る内容。中銀がインフレ懸念を背景に、市場予想に反し利下げを見送るなど、ややタカ派的なスタンスを示す中、インドルピーは対円で下落。国債利回りは上昇。 | CPIや鉱工業生産などが発表予定。前週の予想外の政策金利据え置きにより、経済指標などに金融緩和効果がいかに現れるかに一段と注目が集まる中、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。 |
| | Baa2 |  金利横ばい |  |  景気回復 |  利下げ局面 | | |

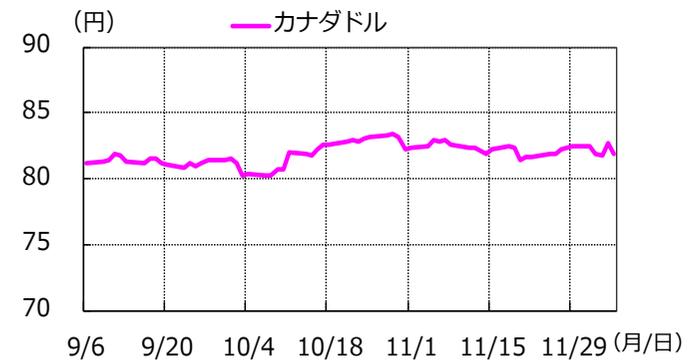
出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
- ※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/9/6~2019/12/6

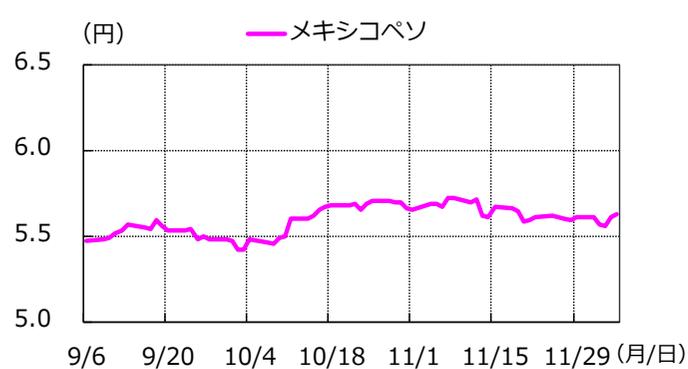
カナダ



ブラジル



メキシコ

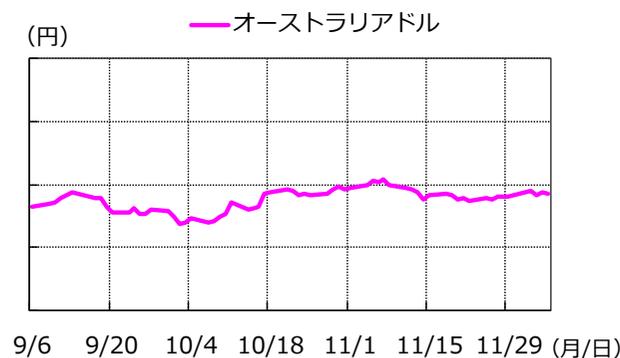


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

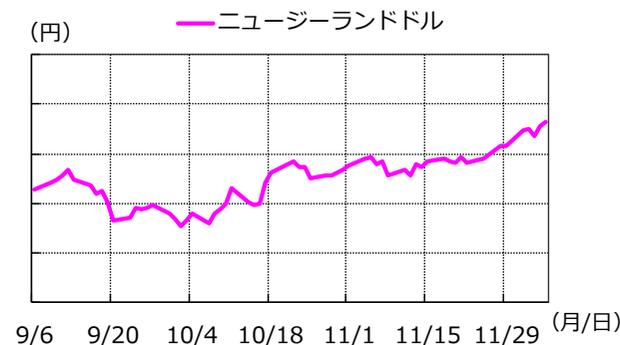
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/9/6~2019/12/6

オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー



※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

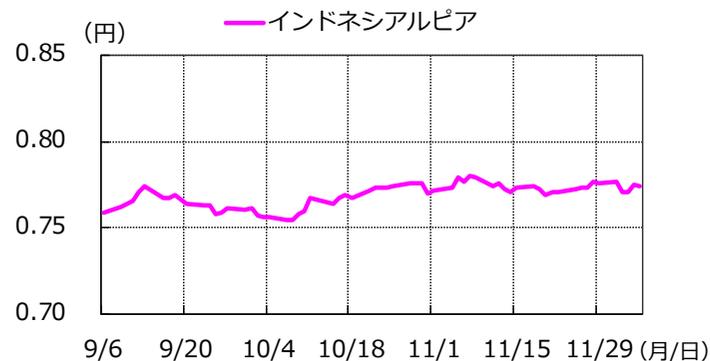
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/9/6~2019/12/6

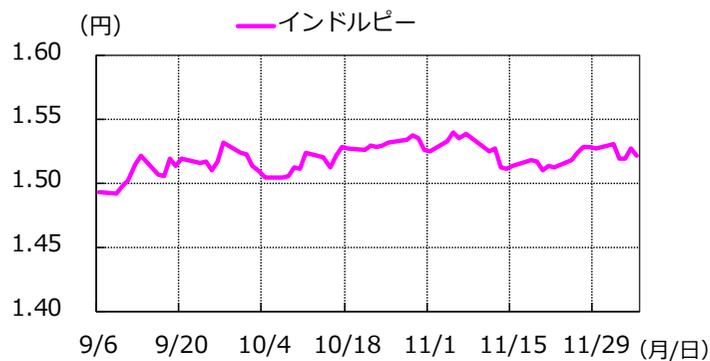
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡しますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。